令和6年産 中生水稲（ヒノヒカリ クレナイモチ）栽培しおり

JA香川県東讃営農センター（中央地区）
監修：香川県東讃農業改良普及センター

■稲わらや麦わらは焼かずにすき込みましょう。■毎年種子更新100％に取組みましょう。

作業の目安

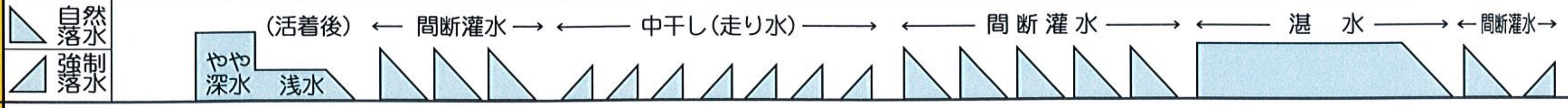
生育相

活着時期　茎が増える時期　茎の増加を抑える時期　穂ができる時期　穂が大きくなる時期　穂に実が入る時期

分げつ期　最高分げつ期　幼穂形成期　穂ばらみ期　出穂期　登熟期（乳熟/糊熟/黄熟/成熟）

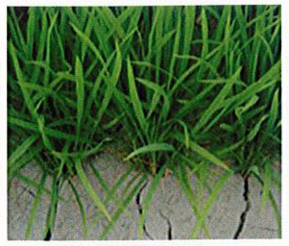
作業 ＼ 品種	移植日	間断灌水開始（移植15日後頃）	中干し開始	けい酸加里施用（出穂35日前頃）	中干し終了（出穂25日前頃）	穂肥Ⅰ施用期（出穂18日前）	穂肥Ⅱ施用期（出穂10日前）	出穂期	収穫期
ヒノヒカリ	6月20日	7月 5日	7月20日	7月25日	8月 4日	8月11日	(8月19日)	8月29日	10月 7日
クレナイモチ	6月20日	7月 5日	7月20日	7月25日	8月 4日	8月11日	(8月19日)	8月29日	10月13日

水管理

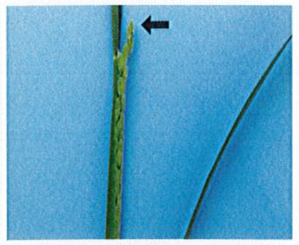


栽培管理

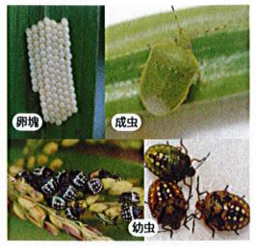
作業	内容
育苗	健苗づくりに努める。（別紙、水稲育苗のしおり参照）
基肥 土づくり	代かき直前に施用する。（施肥基準参照） 土壌改良資材を施用する。（施肥基準参照）
代かき	代かきはできるだけ均平になるように行う。
必須防除 1回目	病害虫防除基準参照
移植	植付本数は3～4本、株間18cm程度とし、浅植え（植付深度2～3cm）とする。移植後、やや深水にし、活着後は浅水にする。
初期除草	除草剤施用後、3～4日間は湛水し、少なくとも7日間は落水、かけ流しはしない。
間断灌水	移植15日後頃より間断灌水を始め、根ぐされを防ぐ。（2～3日湛水、2～3日落水）
中期除草	発生した雑草の種類に応じた適期除草を行う。
中干し開始	茎数が20本以上になれば中干しを開始する。極端に干しすぎないよう田面が黒乾きで小さなヒビ割れができる程度にとどめる。亀裂幅が1cm程度になったら、走り水を行う。
けい酸加里	出穂35日前頃に施用する。（施肥基準参照）
中干し終了	出穂25日前頃には終了し、間断灌水を再開し、丈夫な根を維持する。
必須防除 2回目	病害虫防除基準参照
穂肥Ⅰ施用	出穂18日前に施用する。（幼穂長0.5cm）水稲の生育状況を見て、施用量を加減する。（施肥基準参照）
畦畔管理	カメムシ対策として、畦畔等の草刈は出穂10日前までに行う。
穂肥Ⅱ施用	葉色が濃いようであれば施用を控える。（施肥基準参照）
湛水管理	穂ばらみ期から傾穂するまで湛水管理する。（出穂10日前頃～出穂10日後頃）
必須防除 3回目	病害虫防除基準参照
落水 （走り水）	クサネムは収穫前に抜き取る。 収穫作業に支障のない限り遅らせ、落水後も田が乾きすぎないように走り水を行う。
収穫	籾の80～90％が黄変したら刈り取る。
乾燥 調製	適期収穫に努め収穫後は3時間以内に乾燥に移す。玄米の仕上がり水分は14.5～15.0％とする。籾摺は、乾燥後一昼夜以上経過したのちに行う。


（悪）過度な中干し
（大きなヒビ割れができると根が切れてしまう）

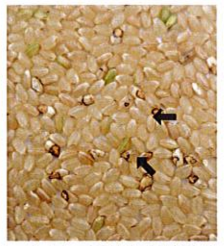
（良）適度な中干し
（亀裂幅1cm程度とする）


出穂
（穂先が茎から現れた状態）

出穂期
（全茎数の4～5割が出穂した時期）



ミナミアオカメムシ


カメムシの被害（着色粒）

施肥基準

土壌改良資材等

（kg/10a）

	資材名	総量	基肥	出穂35日前頃
いずれか	粒状くろがねシリカ	100	100	—
	ユーキ鉄ケイカル	100	100	—
	シリカサポート1号	60	60	—
	苦土一番	40	40	—
けい酸加里		20(40)※	(40)※	20

※けい酸加里を基肥で使用する場合は、10aあたり40kgとする。

基肥・穂肥の施用基準（基肥は全層施肥の施用量を示す。）

（kg/10a）

	肥料名	窒素―リン酸―加里 N―P―K(%)	総量	基肥	穂肥Ⅰ（出穂18日前）	穂肥Ⅱ（出穂10日前）	備考
いずれか	スーパー固形400J	14―10―10	55	55	—	—	基肥1回施肥
	中生一発(J)	20―10―12	40	40	—	—	基肥1回施肥
	さぬきの米一発(J)	20―12―12	40	40	—	—	基肥1回施肥
	スーパーブレンドLP40	14―14―14	60	40	20	—	基肥と穂肥の2回施肥
	硫加燐安402	14―10―12	60(70)	40	20	(10)※	基肥と穂肥の3回施肥
	朝日BB488	14―8―8	60(70)	40	20	(10)※	基肥と穂肥の3回施肥

※食味の低下を防ぐため、葉色の濃い場合は、穂肥Ⅱの施用を控える。

牛ふん堆肥施用体系

（kg/10a）

肥料名	総量	基肥	穂肥（出穂18日前）
牛ふん堆肥	1000	1000	—
スーパーブレンドLP40	45	30	15※

※穂肥の施用は生育状況をみて減肥する。

〈留意事項〉

① 原則としてつなぎ肥は施さない。特に基肥1回施肥は、上乗せで追肥をしない。

② 側条施肥機を使用する場合で、基肥1回施肥体系の場合は、基肥を1割減肥し、基肥と穂肥体系の場合は、基肥を2割減肥する。

③ 野菜跡や肥沃地では減肥する。

④ レンゲ跡の基肥は、レンゲの出来具合やすき込み時期によって異なるが、基肥量を2分の1から3分の1程度に減肥する。

⑤ 麦わらは、できるだけ早くすき込む。また、根腐れを防ぐため間断灌水を少し早め（移植後10日前後）に始める。

病害虫防除基準

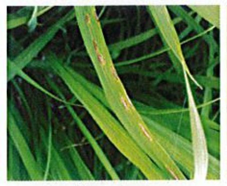
病害虫の発生状況については最新の香川県病害虫防除所のホームページをご覧ください。➡

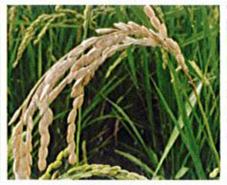
防除時期			対象病害虫名	使用薬剤及び10a当たり散布量・回数	
必須1回目		移植まで（緑化期～移植当日）	いもち病、紋枯病、ウンカ類	ビルダーフェルテラチェスGT粒剤 50g/箱（1回）	
必須2回目	いずれか使用	出穂20～15日前（粒剤の場合）	いもち病、紋枯病、稲こうじ病、ウンカ類、カメムシ類	ゴウケツモンスター粒剤 3kg（出穂5日前まで、ただし収穫45日前まで／1回）	
		出穂10日前（豆つぶの場合）	いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類	ワイドパンチ豆つぶ 250g（収穫35日前まで／1回）	
		出穂直前～穂揃期（液剤の場合）	いもち病、紋枯病	ダブルカットバリダフロアブル 1,000倍100ℓ（穂揃期まで/2回以内）	必要量の水に、規定量のダブルカットバリダフロアブル、スタークル顆粒水溶剤の順に混ぜて散布する。
			カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍100ℓ（収穫7日前まで/3回以内）	
必須3回目	いずれか使用	出穂7～10日後（粒剤、豆つぶの場合）	カメムシ類、ウンカ類	スタークル粒剤 3kgまたはスタークル豆つぶ 250g（収穫7日前まで／3回以内）	
		出穂10～14日後（水溶剤の場合）		スタークル顆粒水溶剤（カメムシ類）2,000倍 100ℓ（収穫7日前まで／3回以内）（ウンカ類）3,000倍 100ℓ	
		出穂10～14日後	カメムシ類、ウンカ類、コブノメイガ、イナゴ類、ツマグロヨコバイ	トレボンEW 1,000倍 150ℓ（収穫14日前まで／3回以内）	

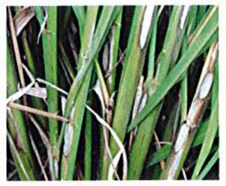
※出穂直前に粉剤で防除を行う場合は、飛散に注意し下記の薬剤を使用する。
穂いもち、ウンカ類、紋枯病、コブノメイガ、カメムシ類
出穂直前　ダブルカットバリダトレボン粉剤3DL　4kg（穂揃期まで／2回以内）

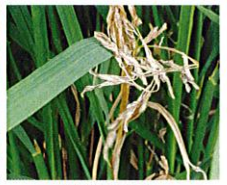
〈確認防除〉（10a当たり）

・スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）	移植後（収穫60日前まで／2回以内）	スクミノン 1～4kg
・いもち病	初発期（収穫7日前まで／2回以内）	ブラシンフロアブル 1,000倍・100ℓ
・紋枯病、稲こうじ病	出穂25～20日前（収穫30日前まで／2回以内）	モンガリット粒剤 3～4kg
・紋枯病	出穂20日前（収穫30日前まで／2回以内）	リンバー粒剤 3～4kg
・コブノメイガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	若齢幼虫期（収穫30日前まで／3回以内）	パダントレボン粒剤L 3kg
・コブノメイガ、イネツトムシ	若齢幼虫期（収穫21日前まで／6回以内）	パダンSG水溶剤1,500倍・100ℓ


葉いもち


穂いもち


紋枯病


縞葉枯病

雑草防除基準

	散布時期・回数	除草剤名 10a当たり処理量		注意事項
初期除草剤（いずれか使用）	移植直後～9日 ノビエ2.5葉期まで（移植後30日まで／1回）	ラオウジャンボ 小包装（パック）10個（250g）		①1キロ粒剤は育苗箱施用剤との誤使用を避けるため、別に保管しラベルの使用上の注意事項を守る。 ②薬害を生じる恐れがあるので、散布後に補植（田直し）はしない。 ③散布後、著しい高温が続く場合、白化や初期生育抑制等を生じる場合がある。 ④散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。また、散布後少なくとも7日間は落水、かけ流しはしない。 ⑤軟弱苗、極端な浅植水田、漏水田では薬害の恐れがあるので使用しない。 ⑥多量散布、重複散布はしない。 ⑦ジャンボ剤は水深5～6cmの湛水状態で、パックのまま投げ入れる。なお、水面に浮草、藻類の発生が多い時や強風時には、薬剤が拡散しにくく薬害がでやすいので、エンペラー1キロ粒剤を使用する。 ⑧フロアブル剤は3～5cmの湛水状態で手振り散布を行う。
	移植直後～9日 ノビエ2.5葉期まで（移植後30日まで／1回）	カチボシLフロアブル 500mℓ		
	移植時（田植同時散布）～ノビエ3葉期まで（収穫60日前まで／1回）	エンペラー1キロ粒剤 1kg		
中期除草剤（いずれか使用）	移植後7日～ノビエ3葉期まで（収穫30日前まで／2回以内）	クリンチャー1キロ粒剤 1kg	ノビエのみ	
	移植後25日～ノビエ4葉期まで（収穫40日前まで／2回以内）	クリンチャージャンボ 小包装（パック）30個		
	移植後20日～ノビエ4葉期まで（収穫50日前まで／2回以内）	クリンチャーバスME液剤 1,000mℓ、水70～100ℓ	ノビエ及び広葉雑草	落水後に散布し、3～5日間は入水しない。 散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になる。 高温時、軟弱苗、重複散布では薬害が出やすいので注意する。
	移植後20日（稲5葉期以降）～ノビエ4葉期（収穫60日前まで/1回）	ツイゲキ豆つぶ250 250g		水深5～6cmの湛水状態で散布する。 散布後3～4日間は水深3～5cmを保ち、7日間は落水、かけ流しはしない。 高温時、漏水田、極端な浅植田では薬害が出やすいので使用しない。
	発生初期（収穫45日前まで／3回以内）	モゲトン粒剤 2～3kg		ウキクサ・アオミドロ、表層剥離の発生初期に散布する。

■農薬使用の際は、「農薬使用基準」を遵守し、栽培履歴を正確に記帳しましょう。

農薬散布の際には、近接ほ場の栽培作物に農薬が飛散しないよう細心の注意を払いましょう。　本田で農薬の湛水処理を行う際には、周辺環境の保全のため少なくとも1週間はかけ流しや落水をしないようにしましょう。
水田では、被覆肥料の肥料成分溶出後に被膜殻が浮上する事がありますので、被膜殻をほ場外へ流出させないように注意してください。お問い合わせは最寄りの支店又はふれあいセンターまで。

作成2023年11月